



# 日本イラストレーター協会

# 会報

二〇〇七年

No. 3

日本イラストレーター協会では、日本全国あるいは世界各地で活躍している会員の皆様にJIAの活動を様々な形でお知らせしています。今回はPDF形式の会報で、新年度の理事を紹介しましょう。

※はじめに

- 理事挨拶 (五十音順)  
葦原いるん (東京都)
- おじゃりりか (東京都)
- 大橋紀子 (東京都)
- 神雅竜樹 (東京都)
- 雲月那未 (神奈川県)
- 新倉規充 (神奈川県)
- 野上真由美 (カナダ)
- 藤田あや子 (長野県)
- 藤本知子 (高知県)
- 渡辺新吉 (東京都)
- 理事長挨拶 (東京都)
- JIAの歩み
- 二〇〇七年今後の予定

**jia**  
Japan  
Illustrator's  
Association



理事 葦原いるん (東京都)

理事3期目になりました、葦原いるんと申します。特に活発なことは何もしておりませんが、毎年のJIA展への出展とFreeMLのコミユニティ参加、それに交流系の集まりに顔を出さしていただいております。

JIAの名前は会員諸氏の活動とも相まって、近年徐々に広まってきているようです。イラストレーター現役の方のみならず、イラストレーションを描くことを本業にしたい方にも、またイラストが必要なさまざまな分野の媒体・場所においても、ちらほらと名前が出るようになってきました。

今後さらに会員が増え、より有用な情報交換や交流が行えるよう、お手伝いできればよいなと思っております……が、なにしろ何もしておらず。

今期は、FreeMLというソーシャルネットワークサービスを、どう活用していくかについて考えております。

既に会員が開く、また参加する個展や展覧会の情報は活発にやり取りされていますが、他の各職種の集まりと比してもネットを活用しているJIAですので、その利点を多に活かしていければと思います。

会員諸氏におかれましても、ぜひFreeMLに参加して、イラストレーション制作に関係するハウツーやノウハウなど差し支えない範囲でご紹介くだされば幸いです。そういうトピックを立てるのも歓迎されることと思います。

また、FreeMLのJIAコミュニティは、井戸端会議のような場でもあります。

一人で深夜に作業していてちよつと疲れたときなどに書き込むと、日本や世界のどこかで起きている他の会員さんが返事を書き込んでくれるかもしれませんが、(反応がないときもあるかと思いますが、その場合他の会員さんは別な時間に起きていることでしょう)

イラストの制作作業中は、何かとこもりがちになるものですが、そんなとき、息抜きのひとつとして利用できるかと思っております。

全国津々浦々の会員同士、実際に会って言葉を交わす機会を持つのはなかなか大変です。ここはひとつ、インターネットの利点を活かして交流を広げてみませんか。その中から、JIA展や各種交流会など、オフラインでお会いすることができたらもっと楽しいことでしょう。

ジャンル・画風・ワークスタイルなど、さまざまな方が居られるJIA、どうぞより広い人脈、ネットワーク作りに、交流に、自作イラスト・作品の展示に活用していただけたらと思います。(とりあえずできることとして、宣伝から、笑)



理事 大橋紀子  
(東京都)

日本イラストレーター協会の皆さま、はじめまして。自己紹介として、私の創作歴の断片を書かせて頂こうと思います。

一九七〇年代の後半、当時いわゆるアングラ劇団と呼ばれた集団での美術活動が、私の公の創作の原点だと思っています。それ以前には、他校の男子学生が主催する『シウルレアリスム研究会』なるガリ版刷りの同人誌に、エルンストやマグリットの模倣のようなイラストや、わけのわからぬ詩などを書いたりしていました。

それが劇団主催者の目に留まったことがきっかけで、そのような世界に足を踏み入れるようになったのです。

ここでは実に様々なことをやりました。実験映画のための小道具を作ったり、衣装を縫ったり、相手の奥様を取ったら勝ちという変なチェスの駒を一揃い作ったり。アンダーグラウンドの言葉通り、いつでもちょっと怖い不気味なテイストを求められ、それが少々重荷に感じられることもありました。

業界新聞や少女向け文芸誌にイラストを描いたり、あちこちの雑貨屋さんで小さな人形を売ったり、出版社に短期のアルバイトに行ったり。実にいろいろな事があったなあと思います。

七〇年代文化の熱いエネルギーを垣間見る事も出来た種々の経験は、何ものにも代え難いものでした。当時の知り合いから後々まで声をかけてもらい、発表の場が広がった時期もありました。

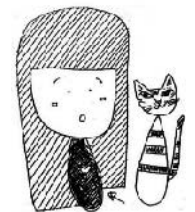


しかし、お恥ずかしいことに、様々な経験にもかかわらず、私にはクリエイターとしての対外的な自覚と自信がほとんど育ちませんでした。それはなぜでしょうか。それは、残念ながら多くの場合それらの制作にかけた時間と労力に見合うだけの報酬に結びつかなかったからだと思います。

声をかけて下さった人たちが十歳、二十歳と年上であったこと、自分がほぼ独学であったことなどから、なんとなく自分には金銭的な交渉をする資格がないのではないかと、と思い込んでいたのです。自分の内向的な性格や、時代の風潮もあつたでしょう。しかし、自分の労力を費やした仕事に対して、それなりの報酬を得る努力を怠つたという消極的な態度が、いつまでも自覚と自信に結びつかない大きな原因だと今では思います。

初めてこちらの協会のサイトに偶然行き着いて、そこに書かれた文章を読んだ時、私に足りなかったのは、このような当然のきちんとしたプロ意識だったのだと、改めて思いました。交流会で楽しく過ごすうちにも、他の会員の方々の意識の高さを学ぶなど、こちらに入会させて頂いたことは私にとって大きな精神的飛躍になったと思います。

感謝の気持ちを込め、微力ながらも手伝いさせて頂きたいと思っております。どうぞ、よろしくお願い致します。

理事 おじやらりか  
(東京都)

最近よく見ているのが、七時四〇分頃から八時二〇分頃までの朝の幼児向け番組です。番組を作るスピードを研究しています。どの番組のセットや衣装も、レベルが高く、人形や着ぐるみを動かすことにより、短時間で映像作品が作られています。また、絵本などの読み聞かせの番組でも、絵の中の一部を動かせるように作り、口を開け閉めしたり、手や羽を動かしたりすることにより、見るものを惹きつける工夫がなされています。

私がこの道を目指したのは、もうずいぶんと年を取ってからですから、映像まで進む根性も残されてませんけど、これから自分の作品で世に出ようという皆さんは、是非、自分の作品を動かすという研究をしてみてください。

アニメにする必要はありません。紙芝居や、絵本みたいな感じでいいんです。幼児向けの絵本というのは、筋は本当にくだらない場合が多いです。それでも、絵や粘土細工などには引きこまれてゆくことが多いです。筋がたいして作れなくても、作品がよくて、動かせれば、チャンスがあるということを意味しているのです。

それから、CGでばかり描いている方は、時間があるときには、手でも作品を作っておかれることをお勧めしたいです。イラストの公募の入選作品を見ても、手で作られている作家さんの作品が選ばれている傾向が強いと感じます。アメリカのイラスト年鑑を拝見しても、ほとんどが手書きです。



もし、手書きの人だけが賞を得ているのが現実だとすれば、両方作れる方がいいに決まっています。

私には確信があります。もし、作品が良ければ、仕事は必ず来る。もし、仕事が出来ないのであれば、それは、まだ力が足りないからである。そういう気持ちで、また一枚を描いています。

どんな依頼者さんも、良い作家さんを探しています。仕事を頼みたいという方が、「アナタに仕事を頼みたい。」という作品にならなくてはなりません。

日本イラストレーター協会は、会として、会員さんに何ができるのかを考えています。展覧会や、年鑑を電子書籍化し、作品の一部を広く公開することによって、仕事を依頼する方に、協会のレベルの高さを知っていただく場にしたい、作家さんに直接アプローチできるような仕掛けを作つてゆきたいと考えています。

お時間のある会員さんは、お手伝いを申し出て下さい。お忙しい方であっても、せめて、年に一度ぐらいは、会の交流会やイベントに参加して、会を盛り上げていただければ幸いです。

展覧会や年鑑で、皆様の作品に触れ、私も遅れをとらないように、また一枚を描こうと思います。万難を乗り越え描いた力作を、どうか、また拝見させていただきます。





理事 神籬竜樹  
(東京都)

会員の皆様、こんにちは。このたび、新しく協会理事に推薦して頂きました、神籬竜樹と申します。

理事とは申しまでも、私神籬も、今こそ株式会社クレア様にて忙しくお仕事させて頂いているものの、昨年一月に協会に加盟させて頂いた新参者であります。

またにもイラストのお仕事を頂いたのも、昨年からという、イラストレーターとしては、新人もいいところなのです。

特にこれといってコネがある訳でも無く、何をしたらいいのだろう、というのが正直な気持ちなのですが、とりあえず、できるかぎり協会のイベントには参加させていただき、少しでも協会の活動を盛り上げることができればと思っております。

ただ、一応長年ののをやっておりますので、フォトショップ関係での技術的な質問などがあればお答えできるかも知れませんが、もし解らないことなどがありましたら、お気軽にご相談頂ければと思います。

ペインターとイラストレーター、あとコミックスタジオも、一応使っているのですが、神籬自身そこまで使いこなしてないのです、こちらはあまりお役に立てないかも知れませんがご了承ください。

ところで、先述の通り、神籬は昨年より協会に加盟させて頂いているのですが、協会に加盟させて頂いてよかったです。



と思うのは、やはり、現役のイラストレーターの方々と直接交流でき、貴重なお話を聞かせていただけるということでしょうか。

神籬もそうでしたが、イラストレーターになりたい、と思っても、いったいどうすればお仕事を頂けるのか、とか営業の仕方とか、全然解らないという方々もいらっしゃると思います、そこで現役でバリバリとお仕事をして居られるイラストレーターの方々と直にお話できるということはすこいメリットだと思います。

その交流からお仕事の芽が芽生えることもあると思いますので、協会の交流会などにまだ参加したこと無い、と言うような皆様には是非、積極的に参加していただければと思います。

また、地方で活動なさっていて、交流会に参加することが難しい方々も、協会のコミュニティなどを積極的に活用していただきたいと思います。

そうやって、協会を皆さんで活用することによって、協会の活動がますます盛り上がりつつ良くなると良いなあと思います。それでは、皆様、今年一年よろしくお願致します。



理事 零月那未  
(神奈川県)

この度、十九年度理事に就任いたしました、零月那未(しずきなみ)と申します。

神奈川県茅ヶ崎市出身、現在は同県内相模原市に在住しております。学歴はなにもないです。イラストも独学です。

フォトショップを使ったイラストを描いておりますが、こちらも独学のため、まだまだ使いこなせていないのが現状です。

自分のイラストについては、ファンタジックでリアルな感覚のイラストを描いている・・・と思っております(笑) まだまだ発展途上の身、ご心配をおかけすることも多々あるかと思われますが、どうぞ、宜しくお願い致します。

絵を描く、創造するという作業は内から沸き出せるものを形にするということ、孤独を楽しめる職業ですが、フリーランスの場合、創造以外の面も自己管理しなければなりません。

収支、営業等、勤めていれば会社がやってくれるところまで、自分の仕事となります。そこに法律が絡んだりするわけですから、勉強不足の私は度々、壁に突き当たります。

そんなときに同じ世界にいる先輩方に心置きなく聞ける環境がある。仕事や事務的なこと以外のいろいろなことも尋ねることができる。JIAという団体に所属していることの大きなメリットの一つです。



また、mixやFreeMのコミュニティ、毎月行われる交流会等を通じて、多くのイラストレーターの方々との交流は、新たな気づきをもたらさし、画だけでなく、私自身の成長にも大きな刺激をいただいております。

できればせつかくこの場を最大限活用し、様々なイベントや交流に繋いで行けるのが望ましいと感じています。

大きな展示会等はどうしても都心部に集中しがちで、地方にお住まいの方々は思いがあってもなかなか参加できないのが現状だと思えます。

それでも多くの方々にご参加いただくには、次に繋げるマニュアル作りも必要です。

私は昨年末のデザインフェスタに有志の方々と参加させていただきましたが、大変有意義な経験をいただくとともに、多くの反省点も感じました。

今年はそれら反省点を元に、アイデアを煮詰め、皆様のご教示、ご指導を賜りながら是非ともJIAで参加できたらと思っております。

宜しくお願いいたします。



理事 新倉規充  
(神奈川県)

はじめまして。  
新倉規充と申します。  
昨年の秋に協会年鑑への参加をきっかけに入会させていただきました。

以後、会員として半年ほどの経験しかないのですが、今回このようなお役目を仰せつかりました。どのようなかたちでこの協会のお役に立てるのかわからない気持ちはありますが、せつかくいただいた機会なので、これを生かして精進したいとおもいます。

精進：一心に仏道を修行すること  
肉食を避け菜食すること  
一心に打ち込むこと  
身を清め行いを慎むこと……

精進の意味がよくわからず、いまWEB上でいちおう確認してみました。保阪ナニガシではないので、意味では当然なく、の意味で使っています。一心に打ち込むこと……

ああ、これは本来の私の性格とは反対のものかもしれない。もともと移り気が多い人間なものです。多情仏心？ならまだいいですが、二兎を追うもの一兎をも得ず……まあ、そんなかんじです。

しかし、去年私も三十路の旅人となりましたので、いつまでもそんなふうにいるわけにもまいりません。このあたりで、一心に打ち込まなければ一兎をも得ず人生に飢え死んでしまう。

JIAにはじめて出会ったのは、去年

度のインターナショナル・イラストレーション・コンペティションがきっかけでした。

二点のパステル画を出品したものの残念ながら落選しましたが……。しかしその後、未練がましくJIAのHPを「お気に入り」に登録してしばしば参拝に行っていたところ、こんどは年鑑の参加者の募集を目にしました。

私にはそれが、JIAの活動に参加するための復活戦のように思えたのです。会員でなくても参加できるとのことでしたので、さっそく私は応募メールを出しました。結果として、審査を経て、ありがたいことに会員にさせていただいたうえ年鑑にも参加させていただくことができました。

幼いころから今に至るまで、ずっと落書きをしてきたような気がします。折り込み広告の裏や学校のノートの余白など、いつも落書きをしていました。しかし一人で描いていた落書きのような絵でも、人に見てもらおうということによって人とのつながりを築けるということに気がついたのは、わりと最近のことです。

絵をとおして人とのコミュニケーションを図れる。JIAがいつそう人と人をつなぐ場になればよいとおもいます。



理事 野上真由美  
(カナダ)

100%イラストレーターでないこんな私が、理事になってしまってもよいのでしょうか？ と思っているうちに、断りきれず、ここにいたってしまいました。

自分自身を、PUSHするにも良い機会かと思うのがんばります。よろしくおねがいいたします。

まずは自己紹介から、東京下町生まれ現在はカナダ、バンクーバー島、ヴィクトリアという小さい町に住んでいます。小さいころは、ウォルトディズニーの映画と手塚治虫の漫画を崇拜していました。

高校卒業後、普通に“立派”な社会人として3年間働いた後、北海道にふらふらと3ヶ月、その後はありとあらゆる仕事を転々とし、国内&海外添乗員業務で、旅行の味を覚え、一九九〇年からは、母いわく“ヒッピー”生活です。

一年間の予定で、カナダに行ったものの、なぜか、いまだにカナダにいます。登山、スキーと毎日のように楽しみ、途中、イスラエルにボランティアに行ったり、アラスカにオーロラを見に行ったりと、多少のお金が入るとすぐに旅行に出てしまう生活でした。今振り返るとやっぱり、変な若者でした。

三十才を過ぎてから、美術大学(OCAD) オンタリオ カレッジ オブ アート アンド デザイン) に行きやっとの思いで卒業し、学生ローンに追われながら、現在アーティスト&サラリーマンという肩書きで、いまだに貧乏生活から抜けられない現実です。



人生楽しくなくてはいけない。と思うのです。悲しみや、苦勞は自分の意思を無視して、やってくるものです。だからこそ、一日一日をENJOYすることを心がけています。好きなことを仕事とすることが出来る私たちはとてもラッキーだと思えます。(私自身、ARTで生活は成り立っていませんが、) JIAでそんな仲間たちに出会えてとても感謝しております。

カナダに住んでいるため、あまり頻繁に皆さんに接することができませんが、出来るだけいろいろなことに参加させていたただこうと心がけています。理事になったからと言うのではなくJIAの会員として、日本以外にも、どんどんと活動の場を広げていくことが出来ればと思います。

個人で、出来ること、言えば、手当たり次第に、コンペなどに出品すること、もひとつの方法かと思えます。そんなことに少しでも、協力できればと思うのですが、こちらでの、コンペは、ほとんどのものが、出品費がかかりますし、金額も馬鹿に出来ません。その上狭き門です。

からといってあきらめてはいけないのは、と自分自身思い始めた今日この頃です。この原稿を書くのもやっとながら、私に、どこまで出来るかわかりませんが、知っている限りの物を、紹介していけたら、と思っています。皆さんがよろしくお願いたします。





理事 藤田あや子 (長野県)

はじめまして。本年度より理事を勤めさせていただきます。藤田あや子と申します。

二〇〇二年からフリーのデザイナー、イラストレーターとして活動しています。私自身もまだまだ駆け出し、イラストレーター協会ならびに一緒に活動していただいている会員の皆様へ情報をお願いしたり、教えるをお願いしたりと何かとお世話になっております。理事を勤めさせていただくにあたって具体的な提案などはまだ持ち合わせていないのですが、皆様と一緒に日本イラストレーター協会の盛り上げていきたいと思っています。

自己紹介をさせていただきたいと思いません。東京生まれ。私立明星学園高等学校等を卒業後、英語の専門学校にしばらく通い、一九八九年渡英。子供のころから絵を描くことが好きで、画家を志し、バヤム・ショー・スクールオブ・アートの基礎コースに通いました。彫刻、写真、版画、デッサン、油絵の基礎を学べるコースです。基礎コースは終了したので、絵を糧にして生活していくのは簡単なことではありません。母親の勧めもあって絵画からデザインに転向。帰国後、桑沢デザイン研究所II部プロダクトデザイン科に入学。在学二年目より製靴会社企画部に契約社員として入社、昼間は仕事をして夜、学校に行くという生活でした。予想した以上に大変、課題の出来にも厳しい学校でしたので、卒業するまでに三年かかりました。しかしその甲斐があつて(??)、今現在、桑沢デザイン研究所で教えていただいていたことは実践でとても役に立っています。不出来な生徒を熱心に教えてくださった先生方に感謝しています。

卒業後、製靴会社に正社員として入社。一九九五年まで製靴会社教社を転々として、結婚後、しばらく休業していましたが、いつかは絵を描きたいという気持ちは変わらず、二〇〇二年より細々と活動をはじめ、今年で五年目になります。七歳になる男の子の母でもあります。

児童画の制作が主です。動物、植物を得意としています。水彩ガッシュ、アクリルガッシュ、色鉛筆、マジックを使っています。その他、立体作品(フエルト羊毛、木材使用)を、制作、販売をしています。絵本の出版をするのが長年の目標です。営業を続けているのですが、なかなか実現しません。今年こそはっ！と意気込んでおります。

現在は長野県に住まいがあり県内だけで仕事をとつていこうとする件数が少なく、私の場合成り立ちませでした。インターネットの普及によって地方でもこういった仕事を個人で出来るようになってきたかを感じています。制作に使用することもありますが、通信機器としてPCは欠くことのできないものになっています。

最後になりましたが、日本ではまだイラストレーターの地位が確立されていないと聞きます。私自身、手間のかかる仕事を、材料費程度の料金で依頼されたり、無償で要求されたりということもあります。皆さん、共にイラストレーターと誇りを持って言えるよう地位を確立していきたいましよう。また、技術の向上に励んでいきましよう。どうぞよろしくお願います。



理事 藤本知子 (高知県)

JIAの皆様こんにちは。JIAの理事に選任して頂いた藤本です。どうかよろしくお願います。

私は地方・四国に住んでいるため、長年都会に憧れを持っていました。仕事環境が地方と比べ都会は抜きん出ているからです。でも最近では地方にいる今こそ力を蓄えていけばいいのだ。そしていつかチャレンジできたらと考えるようになりました。数をこなしていくと、下手でも少しイラストは向上していきます。継続とは力なりを信じたいです。

JIAの交流会にはなかなか参加できませんが、皆さんの様子を見ながら楽しませて頂いています。引きこもりになりがちな仕事ですので、出来るだけ外へでて、他の方々と交流し違う発想や違う価値観に触れることは大切のように思います。創作に繋げていけたら素晴らしいですね。

個人的には今年一月からウォーキングを週一回はしようと思いましたが、昔よくアウトドアをしていたのですが、椅子に座ってばかりいましたので肥満気味にもなり、これはいかん！と昔の仲間へ声をかけ始めました。今も続いています。

3年前から書き始めた墨絵のほうも嬉しいことがあります。龍馬研究会は高知にある会ですが、全国的に有名で幕末関係者ならどなたも知っている会です。その会から土佐四天王の四人の絵を依頼され、武市瑞山(半平太)や坂本龍馬・中岡慎太郎などを描いたことが、今一番の嬉しい出来事です。季刊誌ですので、年末まで綴じ込みで配布されます。



仕事は長いスパンの出版本などの仕事がほとんどなので、イラストせずに仕事できるので有難く感じています。ただ地方なので、イラストのイラストで通すのは難しいと捉えています。様々なイラストを描きながら人と同じではなく、人と違ったイラストは何があるのか? たくさんイラストが溢れている中で隙間のイラストは何があるのかと考えています。若い方は若さを生かしたイラストもあるでしょう。

この業界は普遍性のある平凡な仕事、ほとんどで個性的・独創的な依頼は少ないと聞きます。でも個性的ということに魅力を感じます。続けていければ、いつか個性的になるかもしれないと下手なればこそ、こんな夢を抱いています。

JIAには若い理事がたくさん誕生しました。こんな若い方々が力を発揮できる会になれば素晴らしいと思います。

これからもたくさんの方々へ交流し、未来に向け夢を持って歩んでいきたいと思っています。

どうかよろしくお願います。



理事 渡辺新吉  
(東京都)

二大員・渡辺新吉と申します。静岡県富士市出身。東京の美術大学を卒業後、デザインの仕事をしながら、染色工房にて染色を学び、それらの技法を使った作品を作っております。今回は、沖縄と染色という技法に出会った時の話をします。

一九八九年に渋谷で、沖縄を舞台にした映画の上映会と関連イベントが開催されました。そこで偶然、沖縄で活動する音楽家の人と出会ったのが、そもそもの始まりです。彼の音楽には、伝統楽器と最新の電気・電子楽器を融合させながらも、かの島で育まれたリズムとメロディが脈々と流れておりました。その頃の私はというと、普通に油彩画を描いていましたが、いつも欧米の最新情報ばかり気にして、自分があまりにも空虚で、沖縄の彼が羨ましかったのかもしれない。

翌年、二泊三日の旅に出かけ、そのうち毎年一〜二度通うようになり、バイクや自転車に荷物を積んで離島に渡り、しだいに滞在期間も延ばしながら、かの地の風土や歴史、芸能、工芸に触れました。沖縄の“紅型(びんがた)”という伝統的染色に出会ったのもちょうどその頃です。

そしてこれもまったく偶然なんです。東京のアパートから歩いて行ける距離に『麻生工房』という紅型を基調に着物や帯を制作している染色工房があったんです。こちらで型染めなど基本的な技法をひととおり学んだ後、ここ数年は“簡描きく染料挿し”という技法にチャレンジしています。



“簡描き”というのは、三角錐の筒(つ)という器具から、防染糊を直接生地に塗布する技法です。筒は柿渋で塗り固めた和紙製で、その先端に先金(さきがね)という小さい穴の開いた金属をはめ込んで使います。終戦直後焦土と化した沖縄では、拾ったパラシュートで筒を作り、鉄砲の弾で先金を作った……という工ピソードもあるそうです。

簡描きは原理そのものは簡単なんです。均一の太さで淀みなく引く為には長年の修行が必要です。京都の友禅の職人さんのように細くキレイに引けるようになるにはこの先何年掛かるでしょうか…?

でもたしかに染色の世界ではそれは必要なことですね。たとえばギョウリ(ギョウリ)で油彩とか水彩などの作品と並列されたり、印刷物になったりする機会が多い私は、逆に染色の技法を強調するよう所々ヨロケたり曲がったりしながら、あえて“太く”引いています。

技法の話を始めるとつい長くなります。このへんにしておきますが、今三には全国から様々な技法やイラストの個人的な作家さんが集まっております。交流会や展覧会を通じて、お互い交誼を深め研鑽していく切っ掛けになれば良いな……と思います。どうぞよろしくお願います。



理事長 蟹江隆広 (東京都)

理事長をしております蟹江と申します。私は以前(株)クレアというイラストの会社を経営しており、毎年数百件ものイラストの仕事に携り、その中でいろんなトラブルも経験してきました。

そんな時に当時はどこにも相談する機会がなかったのです。裁判になったケースも何度か経験しています。弁護士を雇うだけで、少なくとも数十万円はかかりました。ですから、一件百万円未満の仕事の場合は、ほとんどの場合泣き寝入りになってしまっていました。

イラストの仕事の料金は一点数千円から数万円程度がほとんどですから、相手に支払う意志がない場合、多くのイラストレーターは泣き寝入りするしかなかったのです。

(株)クレアを通して数百人ものイラストレーターと知り合い、話をする内に協会の必要性を痛感するようになりました。しかしイラストレーターはフリーの人が多く、横の繋がりを持っている人がほとんどいませんでした。たまにいたとしても自分のことだけで精一杯で、他人の面倒まで見ようという人は皆無でした。

私は携ってきた仕事の多さと、業界での人脈にはめぐまれていましたから、私立ち上げるべく責任を感じました。

一九九九年四月ウェブで日本イラストレーター協会設立を宣言し、会員の募集を開始しました。同時に第一回インターナショナル・イラストレーションの作品募集も開始しました。



最初の年に入会したのはわずか十数名でしたが、二〇〇七年六月現在では二四〇名を超える団体に成長しました。

コンペの他に年度賞、協会展、会報、交流会、電子年鑑などの企画やイベントも増え、今年はデザインフェスタにも協会として参加予定です。

新しい会員の人達の中にも積極的に活動に参加しようという人もだんだん増えてきて、今後ますます盛り上がり、発展していくことを期待しています。

私は前回の会報で公約した交流会を盛り上げることに取り組んでいます。昨年はバーベキューなどのアウトドア企画も実行してきました。今年は六月に大阪での交流会にユニバーサル・スタジオ・ジャパンを取り入れてみました。まだまだやってみたいことはいっぱいあります。皆さんの積極的な参加を期待しています。

現在はイラストレーターとしての活動はほとんどできていません。コーディネートの仕事は徐々に減らして、コーディネートが必要ないと感じた仕事は、直でやってみよう割合を増やしています。

事務局の仕事がどんどん忙しくなる一方なので、事務局の人を増やすことも検討中です。今後よろしくお願致します。



## 日本イラストレーター協会の歩み

- 一九九九年 四月 設立  
四月 ホームページの開設
- 二〇〇一年 一月 JIA通信を開始
- 二〇〇〇年 六月 第一回イラストコンペ開催  
十二月 年度賞の制定
- 二〇〇一年 六月 第二回イラストコンペ開催  
十二月 二〇〇一年度賞
- 二〇〇二年 六月 第三回イラストコンペ開催  
十二月 二〇〇二年度賞
- 二〇〇三年 六月 韓国出版美術協会と交流会を開催  
六月 第四回イラストコンペ開催  
十二月 二〇〇三年度賞
- 二〇〇四年 四月 JIAのロゴを制作  
六月 第五回イラストコンペ開催  
十月 会員数が百名を突破  
十二月 二〇〇四年度賞
- 二〇〇五年 三月 事務局を新宿区に移転  
四月 認定証と会員証の発行開始  
五月 第一回日本イラストレーター協会展  
六月 第六回イラストコンペ開催  
十二月 二〇〇五年度賞
- 二〇〇六年 一月 第一回会報発行  
五月 第二回日本イラストレーター協会展  
六月 第七回イラストコンペ開催  
十二月 二〇〇六年度賞  
十二月 日本イラストレーター協会年鑑を〇〇で作成

## 二〇〇七年行事

- 一月 第二回会報発行  
交流会(新年会)
- 二月 二〇〇五年、年度賞の発表  
交流会
- 三月 NHK展に参加  
交流会(花見)
- 四月 新理事の就任
- 五月 第二回日本イラストレーター協会展  
オープニングパーティーと打ち上げ
- 六月 第八回イラストコンペ開催  
第三回会報発行  
大阪で交流会(ユニバーサル・スタジオ・ジャパン)
- 七月 交流会(花火大会)
- 八月 コンペの受賞者発表  
交流会(納涼会)
- 九月 交流会
- 十月 交流会
- 十一月 交流会  
デザインフェスタに参加
- 十二月 第一回日本イラストレーター協会年鑑の発行  
二〇〇七年、年度賞の作品募集